

「こどもたちの大地 ～長倉洋海写真展～」

会場：鶴岡アートフォーラム
会期：2007(平成19)年6月30日(土)～8月19日(日)
月曜休館 44日間

997-0035 山形県鶴岡市馬場町13-3
T/0235-29-0260 F/0235-22-6051
鶴岡アートフォーラム (お問い合わせ：小林)

この度、鶴岡アートフォーラムは「こどもたちの大地～長倉洋海写真展～」を開催いたします。

アフガニスタン、イラン、レバノン、コソボ、エルサルバドル…世界は争いが絶えず、戦争の傷痕が大きく残る国・地域が未だ多くあります。

しかし、そこには我々同様に日々の生活を営み、ひたむきに生きる人々の姿があります。

この展覧会は「こどもたちの大地 ～長倉洋海写真展」と題し、1980年より世界の紛争地や辺境地域において生きる人々の姿を撮影し続けてきた、フォト・ジャーナリスト長倉洋海氏の写真作品を紹介する企画展です。

本展覧会では、長倉氏が多くの国・地域で撮影してきた作品の中から、こどもたちの笑顔と日常をテーマに紹介します。作品からは、私たちが普段知ることの出来ない世界のこどもたちの真実の姿や、表情豊かなこどもたちが語りかけるメッセージが伝わってきます。

そこに生きる人間そのものの姿を捉えてきた長倉氏の作品世界をご堪能ください。

■開場時間

9:30-19:00 (入場は18:30まで)

月曜休館

ただし7月16日(月・祝日)開館、翌7月17日(火)休館

■観覧料

一般500(400)円/高校・大学生300(240)円

中学生以下無料

()内は20名以上の団体料金

心身障害者の方は半額、介助者は無料

学校の教育活動として観覧する場合(引率教員含む)は無料

主催：鶴岡アートフォーラム/鶴岡市教育委員会

後援：山形県/朝日新聞山形総局/河北新報山形総局/荘内日報社
/毎日新聞山形支局/山形新聞/読売新聞山形支局
/NHK山形放送局鶴岡支局/さくらんぼテレビ
/テレビユー山形/山形テレビ/山形放送/エフエム山形

内容

EVENT

●展覧会「こどもたちの大地 ～長倉洋海写真展」

【会期】2007(平成19)年6月30日(土)～8月19日(日)

【休館日】月曜日

ただし7月16日(月・祝日)開館、翌7月12日(火)開館

【会場】鶴岡アートフォーラム

【観覧料】一般500(400)円／高大生300(240)円／
中学生以下は無料
()内は20名以上の団体料金

【内容】

世界的に活躍するフォト・ジャーナリスト長倉洋海氏が多くの国・地域で撮影してきた作品の中から、こどもたちの笑顔と日常をテーマに紹介します。

出品作品(予定)

■展覧会から

『地球一ぼくらの大地』

ちひろ美術館・東京(2004/12/1～2005/1/30)

安曇野ちひろ美術館・長野(2005/3/1～5/10)

■写真集から(刊行年順)

『Dear Friendー紛争地の子どもたち』

JICC出版局(1990)

『人間が好きーアマゾン先住民からの伝言』

福音館書店(1996)

『ともだちーDear Friend』

偕成社(1998)

『ワタネ・マンーわたしの国アフガニスタン』

偕成社(2002)

『ザビット一家、家を建てる』

偕成社(2004)

『きみが微笑む時』

福音館書店(2004)

●長倉洋海アーティスト・トーク

【日時】6月30日(土)14:00～15:00

7月22日(日)11:00～12:00

【場所】展覧会場内

【参加費】無料(観覧券が必要です)

【申込み】不要

(開始5分前に展覧会場へお集まりください)

【内容】

長倉洋海氏による作品解説をおこないます。

●長倉洋海スライド・トーク「こどもたちの大地」

【日時】7月21日(土)19:00～20:30

【場所】フォーラム

【参加費】無料

【講師】長倉洋海(フォト・ジャーナリスト)

【申込み】6月30日(土)より先着60名

(受付時間9:30～19:00)

電話受付(0235-29-0260)または来館受付

【内容】

長倉洋海氏は、27年にわたり紛争地や辺境地域で暮らす人々の生活や日常を撮り続けてきました。テレビや新聞では知ることのできない体験談など貴重なお話を、スライドを交えながら伺います。

●学芸員ギャラリー・トーク

【日時】7月16日(月・祝日)、8月5日(日)、

8月19日(日)

各回とも14:00～15:00

【場所】展覧会場内

【参加費】無料(観覧券が必要です)

【申込み】不要

(開始5分前に展覧会場へお集まりください)

【内容】

鶴岡アートフォーラム学芸員による作品解説をおこないます。

■アーティストプロフィール

長倉洋海 (ながくら・ひろみ)

フォト・ジャーナリスト。

1952年、北海道釧路市に生まれる。京都での大学生時代は探検部に所属し、手製筏による日本海漂流やアフガン遊牧民接触などの探検旅行をする。

1980年、勤めていた通信社を辞め、フリーの写真家となる。以降、世界の紛争地を精力的に取材する。なかでも、アフガニスタン抵抗運動の指導者マスードやエルサルバドルの難民キャンプの少女ヘスースを長年にわたり撮影し続ける。

戦争の表層よりも、そこに生きる人間そのものを捉えようとするカメラ・アイは写真集『マスード 愛しの大地アフガン』『獅子よ眠れ』や『サルバドル 救世主の国』『ヘスースとフランシスコ エルサルバドル内戦を生き抜いて』などに結実し、第12回土門拳賞、日本写真協会年度賞、講談社出版文化賞などを受賞。

長倉洋海のホームページ

<http://www.h-nagakura.net/>

▼受賞歴 (一部)

日本写真協会新人賞 (1983)

第12回土門拳賞 (1993)、産経児童出版文化賞 (1998)

▼写真展 (一部)

「いま、人間へ」

釧路生涯学習センター・北海道 (1996)

「アフガンの大地を生きる」

富士フォトサロン・札幌 (2000)

「微笑み Smile」

ギャラリーTOM・東京 (2003)

「地球—ぼくらの大地」

ちひろ美術館・東京、安曇野ちひろ美術館・長野 (2004-2005)

「マスード敗れざる魂」

国際フォトジャーナリスト祭・フランス (2006)

「シルクロード 長倉洋海の出会った人と風景」

ユニカミノルタプラザ・東京 (2007)

▼写真集 (一部)

『サルバドル—救世主の国』

JICC 出版局 (1990)

『地を這うように—長倉洋海全写真 1980-96』

新潮社 (1996)

『コソボの少年』

偕成社 (2000)

『マスード 愛しの大地アフガン』

河出書房新書 (2001)

『獅子よ眠れ—アフガニスタン 1980-2002』

河出書房新書 (2002)

『涙—誰かに会いたくて』

PHP 研究所 (2004)

『アフガニスタン 山の学校の子どもたち』

偕成社 (2006)

『西域の貌—SILK ROAD』

山と溪谷社 (2006)

▼著書 (一部)

『フォト・ジャーナリストの眼』

岩波書店 (1992)

『鳥のように、川のように—森の哲人アユトンの旅』

徳間書店 (1998)

『子どもたちのアフガニスタン』

岩波書店 (2002)

『アフガニスタン 敗れざる魂—マスードが命を賭けた国』

新潮社 (2002)

『ヘスースとフランシスコ

エルサルバドル内戦を生きぬいて』

福音館書店 (2002)

『幸福論』

* 関野 吉晴との対談集

東海大学教育研究所 (2003)

『ぼくが見てきた戦争と平和』

バジリコ (2007)

▼TV出演 (一部)

[テレビ寺子屋]

フジテレビ系列 (2005)

[週間ブックレビュー]

NHK (2006/6)

[スタジオパークからこんにちは]

NHK (2007/5)

■作品 『きみが微笑む時』 福音館書店 (2004) より



「わら山にのぼって」 (コソボ 2000)



「ヒヨコに、赤い木の実の染料をぬって遊ぶ
クラッチェン」
(ブラジル 1993)